令和6年度

第4回海老名市総合教育会議

令和6年度第4回総合教育会議会議録

1	日 付	令和7年2月15日（土）			
2	場 所	小田急電鉄株式会社海老名本社			
3	出席者	市長	内野 優	教育長	伊藤 文康
		教育委員	濱田 望	教育委員	武井 哲也
		教育委員	海野 望	教育委員	藤吉 ひとみ
4	事務局	教育部長	江下 裕隆	教育部教育支援
担当部長兼教育
支援担当次長事
務取扱兼教育支
援課長事務取扱	麻生 仁
		教育部次長	吉川 浩		
		教育部参事兼教
育総務課長	西海 幸弘	教育総務課文化
財担当課長兼文
化財係長事務取
扱兼郷土資料館
長兼歴史資料収
蔵館長	押方 みはる
		教育部参事兼就
学支援課長兼指
導主事	山田 圭		
		教育部参事兼教
育支援課教育支
援担当課長兼教
育支援センター
所長兼指導主事
兼支援係長事務
取扱	小菌 洋	学び支援課長	松本 晃子
				学び支援課主幹
兼学び支援係長	中島 裕子
5	協力企業
出席者	小田急電鉄株式会社			
		エリア事業創造
部課長	政光 賢士	エリア事業創造
部課長代理	恩田 彩
		エリア事業創造
部課長代理	本間 慎一	エリア事業創造
部調査役	井田 洋平
		エリア事業創造
部事務員	横倉 歩	デジタル事業創
造部事務員	別所 堯俊
		株式会社小田急エージェンシー
ロマンスカー
ミュージアム副
館長	松村 尚		
6	書 記	教育総務課総務
係長	小林 亮介	教育総務課主査	片山 考人
		教育総務課主査	伊藤 景子	教育総務課主任
主事	北 雄一
7	傍 聴 人	45名			
8	開会時刻	午前10時00分			

9 協議事項

- (1) ロマンسカーミュージアムと教育委員会の連携
- (2) 教育大綱の取組について ー放課後児童クラブの充実ー
- (3) 小田急電鉄「A0iスクール」の取組について

10 閉会時刻 午後0時3分

○**教育部次長** 皆様、おはようございます。定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第4回海老名市総合教育会議を開会いたします。

本日、司会を務めます海老名市教育委員会教育部次長の吉川浩と申します。どうぞよろしく願いいたします。

また、今回、小田急電鉄株式会社様の多大なるご協力によりまして、この会場をお借りして開催することができました。また、協議事項でも、ロマンスカーミュージアムと、小田急電鉄様が運営されておりますフリースクールのA0iスクールの皆様にもご協力をいただいております。会場の後ろにいらっしゃいますので、ここでご紹介をさせていただきたいと思います。（拍手）

ご協力ありがとうございます。

会議の開催に先立ちまして、配付資料の確認をさせていただきます。本日ご用意した資料は、A4の紙で、会議次第、ホッチキス留めの上下ツーアップで印刷されました、スライドにも利用されますが、そちらの資料、そのほかに、小田急電鉄様からA0iスクールのパンフレット、チラシ、ロマンスカーミュージアムのパンフレット、もころんのシールをご用意しておりますので、ご確認のほどお願いいたします。よろしいでしょうか。

なお、スライドで利用されます資料につきましては正面のスクリーンに投影しますので、そちらでもご覧いただけます。また、本会議全体を通しまして、海老名市のYouTubeチャンネルにてライブ配信しておりますので、ご了承ください。

それでは、会議に移りたいと思います。

次第の2、市長及び教育長からご挨拶を申し上げます。初めに内野市長、よろしくお願いいたします。

○**内野市長** おはようございます。多くの皆さんに参加していただきました。心から感謝申し上げます。令和6年度第4回の総合教育会議でございまして、今年度最後でございませぬ。本当に年4回やっているのは県内でも珍しいと言われてはいますが、何しろ教育委員会と市長との協議の場でありまして、そこでいろいろな方向性を決めております。今日も皆さんから意見がありましたら、時間がありましたら求めますので、どうか遠慮なく質問されても構いませんし、意見の提案等がありましたらよろしく願いしたいと思ひます。

今回は、小田急電鉄のご協力によってこの場をお借りしました。小田急さんとは包括連携協定を結んで、いわゆる企業と行政が一緒になってまちづくりをやっていこうという形

で進んでおります。相鉄とも結んでおりますし、前回の会場だったリコーとも結んでおります。その前の会場の富士フィルムともやっております、昔からずっと海老名に根を下ろした企業さんとはそういった形でやっております、今後もこういうことを拡大していきたいと思っています。本日は、何しろこういう場でありますので、後で屋上の視察もあるそうでございます。

私もびっくりしたのは、最初、ここの駅間は、飲み屋さんがばっとできたのです。何回か行かまして、そのうちに、いわゆるタワーマンションが2つ建って、そのマンションが建ってから、その間にビナガーデンズパークが建って、そして、そのうちに、何か後ろで工事をやっているなと思ったらこのビルだったのですけれども、そういった部分では、小田急さんの3棟目のマンションを建てております。これが、この駅間では最後かなと思いますけれども、今後、私ども市としては、ちょうどこれだけ地域の方が、意外とまちづくりというのはショッピングだけとか、あるいはレジャーだけというのが多いのですけれども、こういったオフィスがあったり、いわゆる飲み屋さんもあったり、あるいは憩いの場所があったりして、マンションがあると。そうすると、1つの小さな地域になっているのですね。コンパクトな町になっています。

そういった中では、議会でも今後協議されますけれども、文化ゾーンの文化会館の近くに、今度、今、レンブラントホテルのところにありますギャラリーとか、いろいろな芸術を見る場所がありますけれども、それを、ちょうど空調が駄目で直すとなると5億円以上かかると言われていますので、それをやめて、図書館の西側に造ろうとしております。そこにある程度複合的な施設を造ろうということで、文化的なものを造りたいという形で動こうとしております。そういった面では、またそこでこの地域がより一層変わっていくだろうと思っていますので、どうか期待をしていただきたいと思います。

それでは、私どもの会議を傍聴していただいて、どうか忌憚のない意見をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

○教育部次長 内野市長、ありがとうございました。

続きまして、伊藤教育長、よろしく申し上げます。

○伊藤教育長 おはようございます。本当に傍聴の方が今年一番多いのではないかなと思って、すごくうれしく思っています。今年は企業との連携で会場を借りてやっていて、富士フィルムさんで、リコーさんで、小田急さんでということで、行くたびに、学校の中にこういう場があればいいのになと常に思うということです。今日、この部屋に入って驚い

たのは、このバラバラ感がすごいなと思って。実を言うと、会場の椅子がみんな違うのですよ。色が違ったり、形が違ったりして。学校というのは、我々がつくるときはみんな同じにしようと思うんだけど、同じにするよりもバラバラのほうが統一できるなということが、すごくいろいろなものの視点とか考え方の中で、学校教育自体も、もっとバラバラのほうが面白いのかもしれないなと自分で思ったりして、少し変えようかなと思っていきます。あと、あそこの絵も、みんなモザイクの写真なのですよ。そこに赤ちゃんとか、たくさん顔があって、そういうものが集まって何か絵ができていくというのもすごく象徴的ですね。今日ここに入って、いい勉強をさせていただきました。

あとは、子どもは何で電車が好きなんだろうと、先ほどから考えています。それはどうやったら分かるか分からないけれども、私もうちに男の子が3人いたのですけれども、家が忙しくなると、母親にどこかに連れて行ってよと言われるので、しょうがないから総合病院のところで、前は高架ではなかったのが電車が走るのですよ。それを子どもたちはずっと見ていました。そのうちに2人で見て、3人で見て、おじさんと子ども3人が夕方ずっと電車を見ていたという、そういうこと。でも、子どもは何で電車が好きなんだろうと今思っているところでございます。今日はよろしく願いいたします。

○教育部次長 伊藤教育長、ありがとうございました。

続きまして、次第3の協議事項に入りたいと思います。

本日の協議事項は3件でございます。こちらの進行につきましては、本会議の設置者であります内野市長に議長をお願いしたいと思っております。内野市長、よろしく願いいたします。

○内野市長 それでは、協議事項（1）、ロマンスカーミュージアムと教育委員会の連携について、ご説明をお願いいたします。

○教育総務課文化財担当課長 私は、教育総務課文化財担当課長の押方と申します。よろしく願いいたします。

ロマンスカーミュージアムと教育委員会の連携というテーマですが、私からは歴史・文化財の分野での連携ということで事例の報告をさせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

連携の形としては、これまで事例を、3例ほどございましたのでご紹介させていただきたいと思っております。

まず、連携のきっかけなのですから、ロマンスカーミュージアムは開館からもうすぐ4年になられると思います。鉄道のエンターテインメント的な施設ではありますが、先日、登録博物館にもなられまして、歴史・文化財的な観点からでは、小田急電鉄に関する歴史的資料を保有する施設でもあります。海老名市の教育委員会では、市民からの寄贈資料を基に、令和5年に海老名市の温故館で「えびな近代鉄道物語」という企画展を開催いたしました。この展示を準備する中で、資料の提供など、展示の協力についてお声かけさせていただいたことが初めの連携のきっかけとなりました。

お手元の資料のほうには1枚写真があります。自動遮断器第1号の海老名3号踏切という写真ですが、もしかしたら、先ほどの教育長がご覧になっていた踏切かもしれません。こういった画像の提供ですとか、あと、沿線案内のパンフレットの拡大したパネルをお借りしました。この写真は、今は高架になってしまいましたが、河原口にあった踏切で、今の海老名総合病院の辺りとのことでした。

ほかに、相模川の砂利を運搬する鉄道の模型ですとか、小田急さんで最初の電車、モハ1号という電車の画像をご提供いただきまして、温故館の前で顔出しができるパネルも作りました。期間中は多くの方にご来館をいただくことができました。

2つ目の連携は、ロマンスカーミュージアムからご提案をいただいて連携を行いました。小田急沿線のまちとの連携として、「相模国分寺跡のあるまち海老名」というテーマで、エントランス付近でささやかな展示を行いました。周辺の文化財マップなどのパネルも置きまして、あと、iPadを置いて相模国分寺跡のARアプリも体験できるようにしていただきました。

期間中、イベントでクイズ大会も行いました。今、お手元にクイズの内容を1つ掲載させていただきましたけれども、これもロマンスカーと相模国分寺跡の連携を意識したものになっています。相模国分寺の七重の塔の高さがロマンスカーのHiSEという種類の車両の何両分かという問題になります。そこに答えがないのですけれども、分かる方、マニアの方はいらっしゃいますか。答えは、③の4両分になります。ロマンスカーが好きなお子さんにも相模国分寺跡に興味を持ってもらう取組の一つとして、こういうことを行いました。

3つ目の連携になりますけれども、公益財団法人かながわ考古学財団という財団がございまして、こちらの財団も含めた3者の連携の事例でございます。かながわ考古学財団の事業で、県内の各市町村の推しの遺跡をパネルで紹介するもので、横浜と小田原と海老名

を巡回する企画でした。海老名会場を選定する際に、どこがいいかということで、ぜひロマンスカーミュージアムで、と推薦させていただきまして実現したものです。パネルだけではなくて、小田急線沿線各市の出土品の展示も行いまして、ロマンスカーの前に土器や埴輪が並ぶ光景が見られました。

あわせて実施しましたガイドウォークは周辺の鉄道遺構と遺跡を巡るもので、大変好評でした。

効果として、鉄道を切り口に海老名の歴史や文化財に触れる機会を設けることができました。また、その逆もありまして、鉄道と文化財の相互乗り入れとなっています。私たちも一連の事業を通じまして、鉄道のまち海老名を再発見することができました。

最後に、今後の連携の展望です。来年は海老名市域に鉄道が開通してちょうど100年を迎えます。また、再来年は小田急線が小田原急行鉄道として開通して100周年を迎えられます。この機会に連携して、関連した展示などができればいいなというふうに考えております。

また、海老名市内にある近代鉄道の遺構のPRですとか、保存されている車両の学術的な調査など、様々な接点を利用して相互に海老名をPRできればと考えております。

私からは以上です。

では、次は、ロマンスカーミュージアムさんからお願いします。

○松村ロマンスカーミュージアム副館長 皆さん、改めましてこんにちは。ロマンスカーミュージアム副館長を務めております松村と申します。本日は、どうぞよろしくお願いたします。

そうしましたら、お手元の資料で進めさせていただきますので、右下7ページのところから私をご案内いたします。

まず、当館、ロマンスカーミュージアムにつきましては、先ほどご案内いただきましたように、2021年4月に当館はオープンいたしまして、間もなく5年目というところでございます。今までの入館者数だけ口頭で申し上げますと、初年度、2021年につきましては約22万人、2年目、2022年につきましては16万2000人、3年目、2023年が16万8000人というところで、今年度も来月で2024年度終了に近づいておりますが、大体16万人に到達するのではないかとこのところで推移している状況でございます。

そういった中で、入館者の中から団体というところを今回ピックアップいたしまして、この後ご案内させていただきます。

右下8ページの上段の現状というところで、基本情報と書かせていただいております。文字情報だけで申し訳ないのですけれども、その下の団体区分／9分類という画像も見つ、ご案内させていただきます。当館では、2021年、開業の年の秋、10月から集計を取らせていただきまして、大きく9つに分けた分類を取っております。一般の企業様ですとか、学童クラブや障がい者支援団体様、そういったところも含めての法人というところのくくり。そのほか、教育に関しましては、小学校、中学校、特別支援学校、高校、大学、専門、短大ということで4つに区分させていただきます。そのほか、行政、ツアーということで9つというふうにさせていただきました。

その中の、下の図のところをご覧くださいますと、この2021年10月から約3年間たちますが、現状としては、法人が460団体、教育の幼稚園、保育園が158団体、そのほか、特別支援学校様61、小中学校41という形になっているのですけれども、教育のところでは申し上げますと、高校、大学、専門学校といったところ、ご年齢が高まるにつれて、先ほど、お子様の電車が好きな理由というところにつながるのですが、やはり少しずつ離れていくのかなというところ。

ただ、この高校、大学というところにつきましても、やはり鉄道研究会であったりですとか、大学で言うと、近隣だと神奈川工科大学様など、そういったゼミナールでの研究というところで、鉄道は切っても切り離せないところなのかなと考えております。

次の右下9ページにつきましては、現状の団体の情報というところで所在地をまとめたものでございます。図4、図5と書いてあるところにつきましては、少し細かく統計が取れていないのですが、今まで1から5まで順番をつけさせていただいたところ、海老名については、県内の中では3番目、64団体、今までお越しいただいているところがございます。

下の図5につきましては、各市区町村さんの人口統計を転記させていただいたのですが、その中で申し上げますと、やはり海老名市の人口が現状、少し数字は異なるかもしれませんが、14万1223人ということで、神奈川県内で考えると、やはり横浜の母数が多いというところも含めると、その中で割合としては海老名市内から非常に多く来ていただいているのかなというふうには考えております。私たちとしても、海老名市にある施設として、やはり海老名の小中学校様ですとか特別支援学校様に多く使っていただきたいと考えております。

今ちょうど正面に、直近の海老名市の団体様の状況、直近の2024年度につきましては、

中学校が3、小学校2、特別支援学校1、保育園が8、幼稚園が3、放課後デイサービスは4ということで、21団体お越しいただいているところでございます。こちらで見ていただくとおり、先ほど申し上げたように、幼稚園、保育園が遠足ですとか、あと、この時期だと卒業遠足でのご利用が非常に増えているというところで、私たちとしては、やはり小学校、中学校の団体様に学習の中でミュージアムを使っただきたいと今考えているところでございます。

めくっていただきまして、右下10ページ、その他の取組というところでございますが、私たち博物館といたしまして、中学校の職業体験、また、高校ではインターンシップという形で今現在、受入れを行っております。直近ですと、海老名市では1校、昨年、一昨年と、3校、2校ということで、近隣の中学校様からご依頼をいただいております、私たちも極力受け入れる体制は整えているのですけれども、やはり日程ですとか、その時期の企画の状況、また、人員の兼ね合いで少しお断りしているケースもあるのですが、現状は、海老名の学校様については受け入れるようにしているところでございます。

少し余談になりますが、本日、多分、もう間もなくですかね、11時頃からロマンスカーミュージアム2階の入り口で、海老名市の大谷小学校様のおやさいマルシェということで、自家製の農産物を販売しているところの場所をお貸ししているという状況でございますので、11時から、多分3時頃まで小学生が16名ほど今いらっしゃるみたいなのですが、ぜひお立ち寄りいただきたいと考えております。

めくっていただきまして、右下11ページ、近隣の小中学校様以外、公立の施設というところで、海老名市の図書館との連携も強化しております。2年目、2022年4月からスタートしております、近隣ですと有馬図書館様で子ども向けのイベントを1回、2回と開催しております、こちらにつきましては、私たちのスタッフと、あとは小田急電鉄の実際の現業の方々にもお越しいただいて子ども向けのイベントを実施したことがございます。

最近ですと、小学生向けのワークショップというものを当館でオリジナルのものをつくりまして、小田急線を使って地理を学んでいただくワークショップということで、今実施をしております。今、小田急の多摩線が50年を迎える年度なのでございますけれども、その多摩線を使ったワークショップ、ちょうど本日開催しているところでございます。本日が最終回となりますけれども、こういう形で小田急線と私たちも教育要素というところを組み合わせ、子ども向けに、今プログラム等もつくっているところでございます。

続いて、今後の展望というところですが、さらにめくっていただきまして、右下12ペー

ジのところでございますね。その上の部分、今後の展望と書いてあるところ、大きいくくりで3つ挙げさせていただきました。

まず、1つ目につきましては、学校団体受入の整備ということで、今、私が口頭で申し上げたような内容ではあるのですが、現状の課題の洗い出しということで、ハード面、ソフト面というところ、また、館内・館外施設の確保ということで、少しここは私たちの大きな課題なのですが、館内でのお食事対応が、現状やはりできない状況でございます。学校様の遠足、校外学習等では、やはり食事施設ができるかどうかというところは非常に検討の余地として高い部分を占めているかなと思いますけれども、その食事対応をどうするかというところ、また、小学生や中学生が来たときのクラスごとの単位で説明をしないといけないとなったときに、30名、40名いらっしゃると思うのですが、そのようにまとめてお話をするスペースがないというところも1つ課題として挙がっております。

ですので、今後としては、本日ここでお借りしているように、小田急電鉄の施設を借りるとか、海老名市の文化会館と連携を取るなど、そういったところも必要かなと考えております。

2つ目の四角です。学校団体向けプログラムの造成というところで、今、こちらも少し申し上げましたが、他館、大宮の鉄道博物館様ですとか、ほかに私鉄の鉄道系のミュージアムも多々ありますけれども、そういったところの実施状況を伺いながら、ロマンスカーミュージアムオリジナルのプログラムがやはり必要ではないかと考えております。

その中で、この黒ポチ3つ目なのですが、現在、私たちは海老名の車両基地の中に位置しているというところ、及び小田急電鉄も本社がこちらに移転してきているというところのアドバンテージを最大限に活用するべきではないかと考えております。ですので、やはり小田急電鉄との連携を非常に重要視しておりますので、こういったところで、まだまだ手探り状態ではありますけれども、今後、プログラムをつくっていきたいと考えております。

最後、大きい四角です。海老名や企業との連携ということで、地域の特性を生み出したいと考えております。こちらにつきましては、先ほどご案内いただいたように、私たちは登録博物館として登録された施設でございますので、県内・県外博物館との強化というところが非常に今しやすくなってきているところでございます。ですので、神奈川県は非常に有名な企業さんが多々ございますので、そういったところとの連携もしたいなというところ、また、海老名市自体にも雪印乳業様ですとか、近隣であるとJAXA相模原様、あと日

産自動車様と連携をしつつ、鉄道だけでなく、大きくくくると交通、乗り物というところで、車だったり飛行機だったり、果てには宇宙だったりというところも特性としてつくりたいと考えております。

もう少し続きます。下段のところ、少しこれは博物館寄りの話になりますけれども、ちょうど今年の8月に国立科学博物館様主催の教員のための博物館の日というプログラムに参加いたしました。実施日は8月19日の約半日を使って、これは日本全国誰でも応募ができるものだったのですが、一番遠い方は札幌からお越しいただいた方、あと、関西から来た方、帰省がてらですとか、旅行がてらというところも中にはいらっしゃったのですが、当日の欠席が3名いらっしゃったのですが、実質20名ほどご応募いただきまして、今回、私たちも初めての取組だったのですが、非常に皆様ご満足いただきまして、ロマンスカーミュージアム自体がこういった取組をしていることをまず知らなかったということ、小田急電鉄としても、こういう博物館があるんだということを知らなかったという方もいらっしゃいました。その中でお話ししたのが、今私がここで申し上げているような団体の状況であったりですとか、今後の展望をご案内した次第でございます。

また、当日は、そのほか、実際に一緒に活動していただく館内のツアーであったり、サイエンス系のワークショップをやっていたり、あとは、本当に子ども向けのタオル作りをやっていたりということで、小学校、中学校、特別支援学校さん、どこでも来られますよというところをPRするためのイベントということでございました。

最後です。右下13ページ、先ほど大きいくくりで申し上げた学校団体のプログラムというところですが、今、当館の学芸員を中心に検討しているところではございますが、どこを対象にしてプログラムをつくるのかも非常に重要なと考えております。その中で、小学校3年生、4年生あたりの社会科の地理、この部分を中心にプログラムを今度つくっていきたいと考えています。

先ほど、内野市長さんからもありましたように、海老名市の歴史に少し触れたものをつくったりですとか、あとは小田急沿線を使った地理的学習というところ、あとは、総合的学習というところで、鉄道の仕事、また、環境の取組、こういったところもできるのではないかとということで、私たちも非常に今楽しくて、これから先がたくさんあるかなと考えておりますので、本日、多くの方がご参加いただいたということで、ロマンスカーミュージアムにこういうことをやってほしい、また、小田急電鉄とこういう取組をやってほしいとか、そういったご意見も今後お待ちしておりますので、ぜひ今日のこのきっかけを学校

のほうにお持ち帰りいただいて、ご提案いただきたいと考えております。

少し長くなりましたが、私からは以上でございます。ありがとうございました。（拍手）

○内野市長 ありがとうございます。何か教育委員さんから質問はありますか。どうぞ。

○武井委員 丁寧な説明、すごく分かりやすく、お疲れさまでした。海老名市と共に歩んできた、そして、発展してきている小田急電鉄さんだと思っております。

感想ではないのですが、2つほどありまして、1つは、昔、思い出の中に、僕、小学校の頃、体が大きくて太っていたのですけれども、改札を入るときに子ども料金ではないって怒られたのが1つ。あともう1つは、すみません、感想で申し訳ないのですけれども、ロマンスカーミュージアムでジオラマがあるのですけれども、ジオラマの中に、海老名駅から南にまっすぐ伸びる市道8号線があって、ずっと真っすぐ行くと、ストロベリーハウスというのがあるのです。本当は、ストロベリーロードに尾上いちご園というのがあるって、僕は武井いちご園というところなのですけれども、そのジオラマに1軒だけ、2つが混ざった武上いちご園というものがありまして、ジオラマができたときから、みんなからすごくたくさん写真が送られてきて、そこだけ気になっていたのです。言ってくれば、きちんとそこはうちの名前でよかったので、次回からきちんとしたジオラマが見られるのかなと思います。

すみません、感想で申し訳ない。ありがとうございます。

○濱田委員 大変すばらしい、ありがとうございます。今日の施設も本当に感謝でございます。

私は、海老名はたしか鉄道の町という説明があったと思うのですけれども、鉄道の町というと、昔は少しマイナスイメージというか、負の遺産みたいに、駅の一等地にこれだけの広大なスペースを鉄道施設で占拠されているみたいな、そういうイメージがあったように記憶していますが、まさにこのロマンスカーミュージアムもしかりですけれども、鉄道を生かして本当にすばらしいまちづくりになっていると考えております。

海老名と鉄道というのが、市内の駅も非常に多いです、大変すばらしい関連性があると思いますので、ぜひ文化財のほうの視点もしかりですけれども、今後のまちづくりについても鉄道というものを十分生かしながら進めていただけたらなと思います。本当に今日はありがとうございました。

○海野委員 今日、発表ありがとうございました。いろいろ話を聞いていて、すごく夢が広がるというか、いろいろな企業さんともつながっていたりとか、地域ともつながっていて、まだまだいろいろなことができるんだなというワクワク感をすごくいただきました。これから教育のほうともつながりがどんどんできてくるかと思うのですが、これからのそういった活動に期待をしたいと思っています。どうもありがとうございました。

○藤吉委員 今日はありがとうございました。ロマンスカーミュージアムができたときに、孫と1回行ってみようと思ったぐらいで、あとは全然勉強不足で、すみません、こんなに小田急さんがいろいろとやっていることを今日初めて知りました。団体で来るのは、物理的に、時間的にも少し難しいのであれば、ぜひ子どもたちの休み時間とか、長期の休みの日に何か参加できるようなイベントとか、割引券のようなものがあるといいなと少し思いました。よろしく願いいたします。

○伊藤教育長 この後、市長が多分、重大発表をするかもしれないのだけれども、鉄道の町ということで来年、再来年あるので、それを1つ契機として、小中学校も含めて様々にやっていきたい。それで、市制50周年のときに中学生は映画館に行ってもらって、小学生全員にロマンスカーミュージアムの券を配ったので、それもそういう契機の中では1つなのかなとは思ったりもするのでありますが、あとは今日、学童保育クラブさんとかが土曜日とかでみんなで来られるなら、そういう方々にも何かそういうのも1つかなと思います。はい、市長。

○内野市長 1つだけ、学校で何年生と、2年なら2年とか、3年なら3年、では、ミュージアムに行くということで、遠足で行くということを決めてくれれば一番いいのですよね。私たちの頃って、意外とチンケというか、小田原城址公園でチンチン電車に乗ったり、象のウメ子さんを見たり、それから3・4年になったら向ヶ丘遊園なんだよね。5年か6年あたりが少し変わってきたんだけど、そういった感じで。だから、時々教育委員会に言っているのですよ。何で小学校でディズニーランドに行かせないのというと、学校の先生はこう言うのですよ、教育だからと言うのですよ。では、私たちのとき、向ヶ丘遊園というのは教育なのかなと思いました。そうなのですよ。

○伊藤教育長 教育だとは言わないと思うけれども。

○内野市長 言っていたよ、誰か。

私は、はっきり言って、子どもたちにそういうお金を出すのはすごく好きなのですよ

ね。だから、これも何度言っても実現できないのだけれども、修学旅行で北海道に行ってくれと言っても、行ってくれないね。春、夏、秋、冬いいから、中学校で北海道に修学旅行に行ってくれと。そうしたらお金を出してあげる。そのかわり、登別に1日は泊まってくれと言っているわけです。姉妹都市だから。それを言っているんだけど、なかなか旅行会社との関係とか。やはり恐ろしいのだろうね、飛行機で事故があったとき。事故が一番少ないのは飛行機なのですよね。そういった部分言って、なぜかという、私たちの頃って、この中で、飛行機に乗ったことありますか？ 私は69歳なんだけれども、65歳以上の方で中学校のときに飛行機に乗った人って、本当に少ないと思うのですよね。だって、そんな裕福ではなかったし、それから、新幹線も、やっと万博があって、中学校のときに行ったけれども、それがあって行った感じで、意外と、そういった部分でいうと、中学校の頃に飛行機に乗せるという1つの経験もいいのではないかなと、いろいろ思ったりして言っているのですけれども。

そういった面で、今日は学童保育クラブさんもありますから、学童保育クラブさんは意外と自分たちで行ってくれるから。教育委員会に行かせると、例えば門沢橋小学校からここまでどうやって来るんだと言われてしまう。相模線で来ればいいではないかと言ったら、お金はどうするんだと、またがんがん始まるわけですよ。学童保育クラブさんは自由にやってくれるから。その予算ははっきり言って、学童保育クラブさんにつけてもいいなと思いますけれども。

基本的に何をやるかという、今年は予算をつけませんけれども、来年が、ちょうど令和8年が市制施行55周年なのです。海老名の鉄道も相模線が100周年ですし、次の年は小田急が100周年だよ。だから、そこを兼ねて一、二年を少し脚光を浴びさせて、小田急さんと地域包括連携を結んでいますから、何かそういった企画をつくってやっていきたい。はっきり言って、期待していただいて結構です。その代わり、来てくださいね。

食事の場所なんだけれども、小田急さん、うちがこのビルの向かい側に芝生広場を作ったでしょう。あれは、うちが地権者から借りているのですよ。なぜかという、1つだけ、その地権者の方が知り合いで、私が選挙事務所をあそこに造ったのは知っていますか。選挙事務所をあそこに造ったのですよ。それが5期目の選挙のときだったのですね。6期目の選挙のときもその地権者の方は半分空けておいてくれたの。半分駐車場で。市長、使うでしょうと言ったときに、これは選挙事務所は無理だなと思って、それで、借りて、芝生にしてしまったのですよ。

それはなぜかという、ロマンスカーミュージアムに幼稚園生が春とかに来たときに、外でご飯を食べればいいではないかといって、あそこを芝生にしたのです。だから、使っていただかないと困るんだよね。その芝生を、私も含めて職員みんなで植えたので。整地をするのに、芝生って、皆さん、芝生化しろと言うけれども、頼むと、あの面積だけで本当に2000万かかるのですよ。それが高いかという、やはり専門家なのですよね。枯らさないように。だけれども、整地をしてもらって、芝生だけ用意してもらって、あと職員を40人ぐらい集めて、ばあっと敷いてやったのですね。そういった部分でいくと、安く、半分で上がったのですけれども、何しろ借りるのにすごくお金がかかるということと、あそこは一番地代が高いですよ。海老名市内で一番高いところはあの芝生なのです。あれは1坪400万円で売れますからね。すごいのです。あそこが一番高い。そこを芝生にしていますから、使ってほしいなと思うので、よろしくお願いします。地権者がビルを建ててしまうと使えませんので、よろしくお願ひしたいなと。

あと、食事場所は、このビルに小田急の食堂があるのですよ。すごくいい食堂。それで安いし。そうですよね。朝からやっているのだよ。朝から定食があって、すごく安いのですよ。俺はこうやって見たのだよ。そのときに、会社の人がかう言っていた。やはり食べるものから始まるんだ。食べるものを雑にすると働いてくれないと。いい言葉だなと。よって、それを活用してくださいよ。よろしくお願ひします。私は交渉できませんけれども、そちらで交渉していただいて。

以上であります。

では、よろしいですか。皆さん、ここで何かロマンスカーミュージアムについて聞きたいことはありますか。

ところで、この中でロマンスカーミュージアムに入った人は何人いらっしゃるのですか。（会場に尋ねる）

ああ、少ないように見えて、多い。ありがとうございます。1回は見たほうがいいですね。やはり鉄道が好きな人にはいいと思います。では、これからもよろしくお願ひいたします。

それでは、1番目が終わりました、2点目。1つだけ、あまり言わなかったんだけれども、私は小学校の頃に小田急線を止めたことがあるのですよ。ちょうど先ほどの踏切があるでしょう。あそこで、小学校4年生のときに五、六人で待機していて、隠れていたら電車が止まってしまって。止まったら、ちょうど2両しかない、その2両に有鹿小学校の先

生が乗っていた。次の日はすごかったね、怒られて。朝から校長室に呼ばれましたから、もう記憶がずっと残っている。だから、鉄道は止めないようにしてくださいね。

○内野市長 それでは、次は、（２）教育大綱の取組の中の放課後児童クラブの充実について、教育委員会から説明をお願いします。

○学び支援課長 ご説明させていただきます。私、学び支援課長の松本と申します。よろしく願いいたします。

放課後児童クラブの充実についてでございます。14ページをご覧ください。まず、令和6年度の放課後児童クラブの現状でございます。放課後児童クラブは、利用者や数は年々増加しておりまして、また、海老名市で放課後児童クラブは全て民設民営で運営しておりまして、その安定的な運営のために、市は様々な補助金を事業者に交付しています。また、放課後児童クラブに通う保護者に対しては、スクールライフサポートの認定者へ月額1万2000円を上限として補助を行っています。

下段をご覧ください。放課後児童クラブの事業者への補助金額の推移でございます。平成21年度の決算では4420万円でしたが、令和6年度予算は約6億1508万円と、15年間で約13倍になっております。

15ページをご覧ください。放課後児童クラブの数は、平成21年度と比較して15年間で18から67へと、約3.7倍になっておりまして、利用児童数についても604人から2190人と増加しており、過去最高の数字となっております。また、児童数に対する学童保育の利用率につきましても、令和5年度は神奈川県内の市の中で最も利用率が高い結果となりました。

下の段をご覧ください。令和7年度放課後児童クラブ関係の取組についてでございます。なお、予算関係については案としての情報提供となりますので、3月の市議会を経て確定となりますので、変更の可能性があることをご承知おきください。

16ページをご覧ください。放課後児童クラブ事業者への補助についてでございます。令和7年度の新たな取組として、4点の補助のメニューがございます。

（１）朝の児童預かり事業補助金を交付します。小学校の登校前の時間において子ども預かり事業を行った放課後児童クラブに対して補助金を交付いたします。

（２）送迎支援事業補助金を交付いたします。放課後児童クラブは児童の送迎を行っているところもございまして、その費用のうち、車両のガソリン代等について補助します。

（３）耐震改修工事費補助金を交付いたします。放課後児童クラブが、その建物の耐震

診断結果により耐震改修工事を実施する場合、補助金を交付します。

(4) 移転関連費補助金を交付します。放課後児童クラブが旧耐震の建物からより耐震性の高い建物に移転する場合、引っ越しにかかる費用の補助金を交付いたします。

2、補助金額の増額を行っているメニューでございます。育成支援体制強化事業です。これは、放課後児童クラブが税理士など、外部委託を行ったり、事務職員を雇う経費について補助金を交付しているものなのですが、そちらの金額の引上げを行います。

続いて、下の段をご覧ください。継続して行う補助でございます。

(1) 基礎運営費に係る補助金です。平均利用人数、開設日数、開設時間など、国の示す補助額と同額になるように予算等を要求しています。

(2) 人件費に係る補助金です。常勤職員月9000円相当の処遇の改善に係る補助を継続して行います。また、学童保育の支援員の経験年数や研修受講の有無に応じて補助を行います。

(3) ICT関連に関わる補助金です。新規で開設する放課後児童クラブにICT関連の導入に係る経費を補助いたします。

17ページをご覧ください。学童保育関連の令和7年度予算は約6億9500万円となる見込みでございます。国の補助メニューをできるだけ活用しており、補助メニューに応じてですが、国の基準額と同額程度で補助金を交付しております。放課後児童クラブへの補助金は国、県、市が3分の1ずつ負担して交付していますが、国の補助メニューがないものについては市が独自で補助を行っています。また、補助メニューについては放課後児童クラブ事業者からの要望などを聞き取って、市で検討して取り入れて補助金を交付しています。

続いて、下の段をご覧ください。保護者への保育料の補助金についてです。スクールライフサポートの認定者に放課後児童クラブの保育料を月額1万2000円を上限としまして交付しています。令和7年度は補助額を見直しまして、増額を行う予定でございます。

続きまして、18ページをご覧ください。放課後児童クラブの課題でございます。令和6年度は、第1希望に行くことができない児童はいるかもしれませんが、行き場のない待機児童は生じていない状況でした。令和7年度については、まだ現在、確認中です。また、現在の状況として、社会情勢の変化による共働き世帯の増や、駅周辺及び市役所周辺の開発に伴う人口の増などが見込まれておりまして、ますます放課後児童クラブの需要は増えていくことが予想されます。

海老名市は、対応策として次のとおり努めていきます。待機児童が生じないよう企業や放課後児童クラブ事業者との連携を行います。放課後児童クラブ事業者の支援を継続して行います。また、保護者のニーズを把握しまして、適切な施策を実施できるように努めます。

今後も、海老名の子どもたちのために努めてまいりますので、ご協力のほど、ぜひよろしくお願いいたします。

雑駁ですが、以上となります。

○内野市長 ただいま学童保育の現状と来年度予算について説明がありました。委員の方から何かございますか。

○海野委員 ご説明をありがとうございました。今すごく働いている方も多くなってきて、仕事のほうでも時間がバラバラだったり、ご飯のこととかもいろいろあって、学童保育クラブのほうでもどういったことに対応できていくのかということについて、これからの補助とか、そういうところにかかってくると思うのです。また、お子さんが増えてきて、学童も人数が多くなったりとかということがあるのですが、そういうところに対してどんな対策といたしますか、今後の方針があったら教えていただきたいです。

○学び支援課長 海老名市の学童保育クラブは全て民設民営ですので、市のほうでは事業者への補助を十分に行って支援をしているところでございます。学童保育クラブからの、こういった補助があるとありがたいといったようなご要望を丁寧にお聞きして対応していきたいと考えております。

○海野委員 いろいろなパターンがあるので事細かに対応していくのは大変かと思うのですが、できるだけいろいろな形で対応できるようにお願いしたいと思います。ありがとうございます。

○濱田委員 説明ありがとうございました。16ページでありました補助金の新たな取組の中の項目で1つお聞きしたいのですけれども、耐震改修工事費の補助金を市単独でというふうになっています。児童クラブの皆さんは民設民営でご協力いただいているのは非常に感謝しているのですけれども、もしかしたら施設は借地というか、お借りしている施設も結構多いのではないかと思うのですよね。そういった場合、やはり耐震調査とか耐震補助というのは地権者の方のご協力がないと難しいと思うのですけれども、そういった状況はいかがでしょうか。

○学び支援課長 ご指摘のとおり、学童保育クラブが使用している建物は、借りているこ

とが多い状況でございます。今年度、まず、耐震診断に対する補助を開始いたしまして、それは学童保育クラブの事業者の方が持ち主の許可を得て耐震診断を今年度行っているところもございます。そして、その耐震診断の結果を受けて、やはり旧耐震基準で建てられたものであって耐震性があまりよくないところにつきましては、移転に対する補助もここで創設しておりますので、移転できるところは移転していただくとか、そういったことにもご相談に乗りまして、それで、もし移転が難しく持ち主の方の同意が得られて改修工事を行いたいという場合には補助を行うことを考えております。

○濱田委員 お子様たち、事業者の方もそうですけれども、もう日々活動していらっしゃると思いますので、安全が第一だと思いますから、いつ大きな地震が来るとも限りませんので、なるべく協力しながら早急に対応していただきたいと思います。ありがとうございました。

○武井委員 ご説明ありがとうございました。補助事業を推進するに当たって、かなり財政的な面では豊かになるというか、施設を運営していく上で大分よくなったとされていて、それにもうプラス、これからは内容的な、運営内容の子どもたちに対する充実した学習とか支援とか、そういったルールはないと思うのですけれども、そういった面でこれからいろいろなところを指導できればと思っているので、充実した生活を子どもたちができればと思っておりますので、その辺、何か各事業所で考えていることとか、これから指導するようなことがあればお教えいただきたいと思います。

○伊藤教育長 海老名の学童保育クラブは本当に歴史が違って、その中で本当に民設民営の中で、困っている方々、保護者の方々が集まって、みんなで考えて、それを預かる人たちが出てきて、自分の家で始まって、どんどんニーズが高まっているという状況の中で今あります。ですので、実を言うと、横浜をついに抜いて、神奈川県内で一番利用率が高いと。近隣の綾瀬とは2倍以上子どもたちの利用率が違う。だから、それが海老名の今の発展の現状であるということです。でも、子どもたちには、やはり家庭と同じような形で、放課後、ただいまと家に帰って過ごせるようなもの。それぞれの学童は民設民営なので、それぞれ特色が違うのですよ。ですので、私はそれを大事にしたいです。

ただ、現状ではすごく利用率が高まっているので選択ができないのです。でも、そこに行った学童の中で保護者の方と事業者の方が話し合う中で、その特色の中で子どもたち一人一人が健やかに育つ。だから、学習が全てではないけれども、また、そこで子どもたち同士が活動することで時間を過ごすことがとても大事なことで、ある意味で言うと、少し

話は変わりますが、昔だったら地域でそういう場所があって、みんな子どもたちはそうやって過ごして、夕方になったら家に帰るという時間があったのですけれども、今はそういうことができない中では、逆に言うと、全員が学童に行けばいいのになと私は思ったりもするぐらい、それほど価値が高いのですよ。

要するに、放課後、違った時間で、子どもたち同士が異年齢で、1年生から6年生まで一緒になって過ごすということが。そういう中なので、今少し需要に対応するのに必死ですけれども、それぞれの特色を保護者の方が選んで、そういう中で自分の子どもを預けるという流れになれば。ただ、基本的には条例ができていますので、条例を満たすようなことでやってくださいということは、我々教育委員会は、指導はできるということです。でも、その中でそれぞれの特色の中で学童の運営を進めていただくというのが、今、それを支援したいと思っています。

○内野市長 よろしいでしょうか。ほかにはないですか。

今日は傍聴に学童保育クラブの方がたくさんいますけれども、ここで要望を言われても困るのですけれども、何かこれだけは言いたいという方はいらっしゃいますか。学童保育クラブには学童保育クラブで言う場所がありますから、納得いかななくても、質問を重ねないで引いてくださいね。それについて答えるか答えないかは教育長が考えます。時間が迫っていますので短くお願いします。

○傍聴人 学童保育クラブを運営している者です。

ご説明ありがとうございます。補助金額を上げる方向で検討いただいているということで、経営者側としては大変助かりますので、引き続きよろしくお願いします。

一方で、学童保育クラブの量を増やす上で、やはり空き物件の選択肢が非常に少なく、例えば、市議会の定例会なども拝見して、空き家バンクというキーワードも出たので、まちづくり部に問い合わせしてみたところ、去年の秋時点では1件も登録がないのでみたいな話もあって、少し空き物件の選択肢が少ないなと思っているのですけれども、内野市長から海老名市の空き物件状況など、少しコメントとかアドバイスをいただけないかなと思ひまして、よろしくお願いします。

○内野市長 まとめて答えましょう。

次の方、どうぞ。

○傍聴人 おはようございます。私も学童保育クラブを運営している者です。

松本課長、ご説明ありがとうございます。私のほうで皆さんに少し今日、ご理解とい

うか、知っていただきたい数字がありまして、学童保育クラブで子どもが過ごす平均的な時間が年間1600時間と言われていています。もちろん延長保育とか、そういうところの部分は入っていないのですけれども、これは小学校で過ごす時間の1200時間より400時間多いのですよ。ですので、やはり先ほど濱田委員がおっしゃっていた、過ごす時間が長いところの場所が、いわゆる質の高い場所ではないというか、耐震等の問題、それは本当に重要であるということで、今年度からでしたっけ、耐震の診断を、そこに補助金をつけていただけるということで、来年度に至っては補修工事のほうの。

ただ、正直申しまして、まだ金額はお示しされていないのであれなのですけれども、十分と言える額ではなく、診断のほうも一部は運営者が負担しなければいけない金額だったりもするので、そここのところの充実をご検討いただきたいということと、先ほどの過ごす時間を皆さんには知っていただきたい。

それからもう1つ、数字として知っていただきたいのが、小学校の教員の平均給与が、これは全ての年代の教員の給与なのですけれども、平均が今672万円、学童保育の指導員に至っては381万円という、381万円もらっている人はなかなか海老名市ではないと思うのですけれども、そういった状況になっています。

昨年、海老名市で痛ましい事件が起こりまして、教育委員会のほうからというか、新たに配慮を必要としたご家庭の児童を学童保育で受け入れるような対策というか、そういったお話が教育長から先日あったということで、先ほど委員の方もおっしゃっていただいているし、教育長もお話ししていただいたのですけれども、職員の質の向上、数に関しては、今回も待機児童が出ていなかったということがあるのですけれども、放課後児童クラブの質の向上、それは職員の質の向上もあり、先ほど教育長がお話しされていた学童保育クラブ自体の質の向上というのが、やはり本当に必要で、特に職員に対しての研修費用とかの手当というのは基礎運営費の中に含まれておりまして、ほとんどが運営事業者任せというような現状がありますので、先ほど市長も教育長も子どもの頃の放課後のお話をされていましたが、子どもたちにとって放課後というのは宝の時間だというふうに、私どもの学童保育クラブでは考えておりまして、この宝の時間に接する大人が、やはり質が高くなければ子どもたちの将来というか、よりよい未来は描けないのではないかなと思っていますので、そちら、少しご一考、この場にいらっしゃる皆さん、考えていただきたい思います。

長くなって失礼いたしました。

○内野市長 総括的に私がお答えします。

まず、物件の話、これは、はっきり言って、海老名市内には宅建協会と全日本不動産協会があります。それとリンクしながら、どういう物件がいいのかということを経済委員会、あるいは個人でもいいのですけれども、言うことによっては、提案が向こうからありますので、そこから選べると思います。これは宅建協会と経済委員会が中心となって情報を流すような仕組みをつくっていきたくて思っていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

もう1つ、1つだけ学童の方に申し上げておきたいのですけれども、私が市長になったときに、学童保育クラブに対する予算は6000万円に欠けていました。今は6億6000万です。10倍以上になっています。13倍。では、学童保育クラブの数は13倍になっているかと、児童数は13倍になっていません。3倍です。よって、何かというと、補助金の額が、質が高まっていると。1つだけ私は思うのですけれども、皆さんもそれぞれ経営でやるのか、ボランティア的にやるのか、これが、最初は、子どもたちがいるからみんなで助け合ってやろうねと始まった意識だったのです。今言われているのは、1つは経営の意識だと思ひます。

そうすると、そこにおいて、私も1つ心配事があります。1つは学童保育クラブ、もう1つは保育園なのです。海老名は、私が市長になったとき、保育園が公立、私立含めて9園しかなかったのです。今は32園あります。あと10年たったときに、子どもが現状の数いるかということ、いません。よって、公立を今、どんどんやめているのです。公立は6園ありました。今は4園しかありません。2園、民間に払い下げたり、いろいろやりました。

それはなぜかということ、いざというときに公立が縮小しない限り、民間を潰すようになってしまう。ところが、学童は民設民営ですから、今60幾つあると思ひます。その中で、うちは子どもが少ないので何とかしてくださいということが、うちのほうでフォローができるかということ、できません。これが今後の問題です。

だから、今言われたことは分かるのです。300何十万ももらっていない。だけれども、うちの孫も大学4年生で、今、学童保育クラブでアルバイトをやっています。そういった子どもたちとやることも必要だと思ひますし、資格の問題です。全く資格がないと困るので、その資格は、ある程度、子どもと遊ぶ程度、責任者とか、いろいろ分けていくことによつて、責任が重いほど、やはりそれなりの賃金がないといけないということは常識だ

と私は思っています。その部分は、それの中で考えることなのですからけれども、もう1つその部分では、小学生が今2000何百人いますけれども、教育長が言ったとおり、全員が学童保育クラブに入ってくれば一番いいのですよ。現状では入っていないわけです。はっきり言って、問題はそこなのです。全員入っていませんから、あとは家庭にいらっしゃる。

ところが、保育園と幼稚園は絶対どちらかに入っているのですよ。入っていない人は本当に一部。保育園に入っていない人はほとんど幼稚園に入っていますから。ところが、学童保育クラブの場合は、学童保育クラブに入っている人は、いわゆる2000何百人ですからけれども、全体の幅の中で言うと、小学校の児童数はもっと多いと思います。その問題というのは大きな問題なのです。そこに海老名市として、前は1人7万円かけていました。今は平均でいいますと30万円かけています。そうすると、かかっていない人は家にいらしゃると。恩恵を受けていない。そこで始まるのはこういうことなのです。私が1回そういうことを言ったら、私たちは共稼ぎで働いているんだから保育園に入る権利があると言われた。すぐ権利がと言うのです。私たちは共稼ぎだから、保育園をやるのは行政の責任だから、きちんと面倒を見る義務があるのではないかと言われました。

それは違うのではないかなと思って、レベルとして、一生懸命やっていなければ駄目なのですけれども、行政は一生懸命やっているのです。遅れていることは遅れている。今、保育園だって待機児童はいますから、間に合わない。それで、毎年毎年つくっている。最終決断で市役所につくって、こどもセンターにもつくろうよということでやっています。

だけれども、それも1つの危険があるのですよ。つくったものを子どもたちが少なくなったときに終わりにしますよ、では、ばいばいとできるかできないかなのですよ。これがどこの市でも、地方で始まっている話です。

私どもの姉妹都市である白石市が、民間保育園がもうやっていけない、廃園になるので市に助けてほしいということを言われたそうです。だけれども、市では助けられないということで廃園になりました。将来は、もう現実にそうなりますから。

そういったところを今後考えながら、いわゆる学童保育行政とか、いろいろなことを考えて、将来の10年後、20年後、5年刻みで考えたことを皆さんと検討しないといけない。その中で、労働条件とかいろいろあろうと思いますけれども、そういう相談をしないといけないのではないかと思います。単なる減少面で、子どもたちがいるから、その子どもたちのために私たちの最善を尽くすことはすごく必要です。だけれども、その中で将来を見

据えないと、みんなが後悔をする時代になってくる。それが少子・高齢化です。だから、海老名は人口を増やしているわけです。こうやって、ある程度、生産人口を。これがどんどん減ってくると、減り始めると止まりません。止まらないと、全てが狂い始めます。今言われる学童保育クラブ、それから保育園、全てが狂い始めます。これが人口減少の大きな問題ですから、それについては、今後どういう運営をやっていくのか、私どもは認識はきちんとしているので。

あるいは、1つ大きいのは、学童保育クラブの予算は国が3分の1、県が3分の1、市が3分の1出して成り立っています。この国県の負担分が、補助金として入らずに、将来交付税に算入されると困ります。国からのお金が地方交付税として計算されるようになると県は負担しません。そうすると、国が普通は地方交付税として出してくれます。けれども、交付税になると、海老名市は普通交付税不交付団体ですから交付税が来ません。そうすると、全額海老名市が出さないといけない。そういう時代は絶対やってきます。金を持っている、いわゆる、ある程度自立できるところは自立していただきたいということで、どんどん来てしまっています。それが国のやり方ですから、その部分も1つの危険があるので、私どもも本当にこれには慎重になっています。

今は、補助金が国から来るから、県から来るからやれるけれども、こなかったらどうするのかと。本当にそういった話が、議会でもある程度認識がある人は分かりますけれども、全く分からない人は、やれやれと言います。そういった部分が少し問題かなという形です。

あと、詳しい話は別途やりたいと思います。

それでは、次の議題に入ってよろしいですか。

○内野市長 次の議題、よろしく申し上げます。（3）小田急電鉄「A0iスクール」の取組について、申し上げます。

○別所デジタル事業創造部事務員 皆様、こんにちは。私は、小田急電鉄デジタル事業創造部というところでA0iスクールを担当しております別所と申します。よろしくお願いたします。

では、スライドを進めていただいて、まず自己紹介をさせていただきたいと思います。お手元の資料にも同じスライドを印刷していただいておりますので、お手元か前の画面を見ていただきたいと思います。

私は、中学3年間、不登校を経験しておりまして、そのときに鉄道に乗りに行ったりとか、時刻表を読んだりとか、もともと鉄道がすごく好きだったので、そういった経験をしまして、つらいときに自分のことを支えてくれた鉄道の現場に何とか関わりたいなというところで鉄道の仕事を選びました。今回、海老名市さんのこういった場所ということで、私と海老名の関わりというところを少し強調しておきたいなと思っているのですけれども、小田急電鉄に入社をしましてのが2017年、その後、駅員と車掌を経験しまして運転士になるのですけれども、見習いとして配属されたのが当時の海老名電車区というところ、2020年ですね、まだこのビルも建っていないで、冒頭、内野市長がおっしゃった飲み屋さんがたくさんあるだけの状態ですね。道の向こう側にあります白い建物、今は小田急エンジニアリングさんの施設になっているのですけれども、昔は海老名電車区と海老名車掌区というところが入っておりまして、そちらに配属になりました。泊まり明けの勤務で、よくまだまだ暗い時間に、それこそ海老名の車庫を歩いて、指導員に怒られながらいろいろな勉強をした、そんな思い出の地というのが私にとっての海老名かなと思っています。

海老名電車区に所属をして、運転士を兼務しながら、このA0iスクールの事業について、2021年に検討を開始しまして、2023年にA0iスクールプレ開校というところで、藤沢市の善行というところにリアルの教室をつくりまして、そこからプレ開校、昨年、2024年に本開校ということで今取り組んでおります。

昨年10月の本開校の後は運転士からA0iスクールの運営に専業になりまして、今運転はしていません。写真を少し載せさせていただいたのですけれども、ありがたいことにA0iスクールの開校後、生徒が私が運転する電車に乗りに来てくれたりとか、運転しているところを後ろから写真を撮ってくれたりとか、そういうことをしてくれまして、せっかくの機会なので、少し紹介したいなと思って載せさせていただきました。

本日は、少し緊張しているのですけれども、2つの疑問にお答えするような形で話を進めていきたいと思っております。

次のスライドをお願いします。よく聞かれる疑問というところで、取材等をお受けする機会も結構あるのですけれども、なぜ小田急さんは不登校という社会課題に取り組んでいるのですか、これはよく聞かれます。もしかすると、今この会場でも同じような疑問を持たれている方がいらっしゃるのではないかなと思っています。まず、こちらが1つ目です。

次のスライドをお願いします。2つ目は、少し言葉が厳しいのですけれども、こういっ

た質問をされることもあります。教育のプロじゃなくて大丈夫なのですか。もっともな疑問かなと思います。私たち小田急電鉄も別に教育事業をずっとやってきた会社でもありませんので、至極真っ当な疑問かなというふうに思っております。一方で、教育のプロではない私たちだからできることもあるのではないかと考えているので、そのあたりをご説明できたらと思います。

次をお願いします。まず、AOiスクールの概要についてお話ししたいと思います。

次をお願いします。AOiスクールは新規事業という位置づけになっております。実は弊社の中に新規事業アイデアを社員から広く公募するという制度がありまして、クライマーズというのですけれども、こちら発の事業となっております。実は、AOiスクール以外にもクライマーズ発の事業というのはいろいろありまして、自治会の課題解決に取り組むものでしたり、獣害問題に取り組むものでしたり、様々なものを扱っております。全ての事業に共通しているのは、社会課題をビジネスという形で持続可能な形にして解決し続けようという考え方になっております。

次をお願いします。今、AOiスクールは子どもの状況に合わせた3つのコースを開校しております。藤沢市善行のリアルの教室に通うことがメインになる「善行コース」というもの、それから、メタバース空間に通学して、スタッフやほかの生徒とコミュニケーションを取る「バーチャルキャンパスコース」というもの、それから、オンラインのセミナーで自宅からでもカメラオフで、音声もオフで参加できる「ライブセミナーコース」というものをつくっております。それぞれお子様の外出とか、他者とのコミュニケーションに対するモチベーションみたいなものに応じて参加がしやすいようにバリエーションを設けているところです。

では、次をお願いします。私たちは、少し堅い言葉になるのですけれども、教育哲学として、I'm ok, You're okという言葉掲げております。私自身もそうだったのですけれども、なかなか学校に行けていない子どもは、自分が取り組みたいことを自分自身でなかなか認められないという課題があったりします。ひたすら毎日のつらいことに向かっていかなければいけない、そんな感覚を持っているという場合があります。これを踏まえて、まずは自分の感情とか自分の考え、やりたいこととかを自分自身でしっかりと認めていく、このI'm ok!という状態を目指していきます。それを土台にして、それぞれが大切にしている自分というものをお互いに尊重して過ごせるようになるYou're ok!、この2つを合わせてI'm ok, You're okというふうに言っております。

これは、私たちが生徒に何かを教えるというものではなくて、スタッフ自身も併せて生徒と一緒に取り組んでいくものになります。なので、お互いにあだ名で呼び合ったりとか、そういったところをやりながら、上下の関係ではなく対等な関係で子どもたちと向き合っております。

次をお願いします。こちら写真も載せさせていただきました。現在、A0iスクールの運営スタッフは、私を含めまして小田急電鉄の社員で構成しております。ふだんは運転士、車掌、あとは、それこそロマンスカーミュージアムさんの少し奥側にある海老名検車区というところで車両のメンテナンスをしているスタッフなど、いろいろと本業を持ちながらA0iスクールに携わっているスタッフがおります。このように、実社会で活躍する、言ってしまうとプロフェッショナルがI'm ok, You're okというものを大切にして、子どもたちと対等な関係でコミュニケーションを取っている、それがA0iスクールになります。別に本業がありますので、スクール外でも、最初にお見せしたように、スタッフが運転している列車に子どもたちが乗ってきたりとか、右側の写真なんかは、それこそ海老名駅なのですけれども、海老名駅の副駅長さんが今、A0iスクールのスタッフとしておりまして、左側は生徒なのですけれども、会いに行ったということで写真を撮ってきて、こんな感じで、ふだんの業務中に生徒に会うということもあるかと思っております。

次をお願いします。私たちは、子どもの好きなことをサポートしていきたいというふうに思っているので、カリキュラムというものはあえて設けておりません。生徒たちは毎日スクールに来て、自分のやりたいことをおのおのに取り組むような形になっています。その分、鉄道とか交通に関わるものを中心にして様々なジャンルの、まず書籍みたいなものを用意しております。

それから、生徒によっては教科学習に興味を持ってくれる場合もありまして、真ん中の写真なんかは、少し難しいというか、鉄道の細かい話になるのですけれども、お好きな方はご存じかもしれません。標準勾配というものがあまして、鉄道の最高速度とか、安全に走れる速度を割り出すために必要な勾配の計算なのです。中学生ぐらいでもできるような簡単な計算で割り出せるのですけれども、それを実際に教えているところになります。右側にいるのが運転士の免許を持っているスタッフです。実際、見習いのおきに私たちが習ったことをそのまま教えていくと、こういった形で、1つ好きなこと、鉄道をきっかけに教科学習に興味を持つ場合もあります。

とはいえ、私たちは教育のプロではないので、授業をしてくれみたいなことはなかなか

難しいというところで、プロの力を借りているところもありまして、オンラインの教材、自学自習ができるようなものを導入しまして、この授業動画を一緒に見たりとか、課題を一緒に取り組んだりというところでサポートしております。

次をお願いします。スクールの中だけではなかなか生徒の興味を満たせないかなというふうにも思っております、弊社の施設を中心に課外学習を定期的実施しております。実はちょうど今、相模大野にあります大野乗務所というところを生徒たちが見学している時間ですね。この会議が終了しましたら、私も午後の会に、相模大野に移動して合流するのですけれども、そんなことをしております。

左側の写真は、昨年、ロマンスカーを貸し切ったときの写真でして、ただ貸し切るのはつまらないなと思って、ふだんスタッフで来てくれている運転士に頼んで運転してもらいました。なので、いつも普通にしゃべっているスタッフが運転しているところに乗るといような形でやりました。

それから、スタッフ以外のゲストを招くようなオンラインのトークイベントもコンテンツとして提供してまして、当社の中にも鉄道のプロフェッショナルがたくさんいますので、そういった方々もそうなのですけれども、社外からも、先日は鉄道写真家の方にご登壇いただいたりとか、いろいろなゲストを招いて、小田急だけではないいろいろなものを提供できるようにしています。

次をお願いします。これまでは、どちらかというとな動的にコンテンツを楽しみたいという子たち向けというイメージなのですけれども、まずは、少し受動的にコンテンツを楽しみたい、見るだけとか、そういうのがいいなという子たちの声もありましたので、ライブセミナーというものもやっています。毎月、鉄道に関するテーマを設定しております、オンラインのセミナーなので、どちらかという、これは鉄道だったら授業ができるので、僕たちも資料をつくって授業をするような形を取っています。

オリジナルのワークもつくっております、実際に仕事をしているときに上司から、少し、お前、これ分かるかみたいな感じで聞かれたような内容を引っ張ってきて、子どもたちに分かるようにカスタマイズしてお送りしているところです。

これも、顔を映したり、声を出したりという必要は全くありませんので、気軽に参加できるというところと、テキストチャットを使うように利用を促している、顔や声は出ないのですけれども、双方向にコミュニケーションが取れるようにしています。

次をお願いします。生徒の成長というところで、簡単にご紹介させていただいたらなと

思っています。とはいえ、少し時間がないので左側の子だけにしようかな。左側の子は中学3年生の子なのですけれども、この子は将来、小田急で運転士がしたいと言ってくれています。彼は、在籍する中学校にはずっと別室登校をしていると聞いています。せっかく小田急で運転士になりたいと言っていたので、日頃の業務もそうですし、小田急に入るまでの就職活動の話であつたりとか、なかなかこういったオフィシャルな場では言えない生の話を彼には伝えています。いろいろと一緒に、どうやったらその夢がかなうかなというところを検討していく中で、目標となる進路、では、高校はどこに行こうかみたいところをしっかりと決めて、無事に進路も決まって4月から高校生になるのですけれども、引き続きA0iスクールには通って、高校に行きつつ、A0iスクールにも来て、一緒に、3年後なのか、5年後なのか分かりませんが、就職活動に向けていろいろなことを伝えていきたいと思っています。

次をお願いします。保護者の方の変化というところで、実際にいただいた声を中心にご紹介できればと思うのですけれども、A0iスクールでは、右側を見ていただくと分かる通り、チャットツールを使いましてオンラインの保護者会をつくっています。毎日、こういった活動をしましたというような形で保護者の方にお伝えをしています。こういったところで、ご自宅ではなかなか見られない生徒の様子を保護者の方に見ていただくことで、すごく喜んでいただいています。ダイレクトメッセージのような機能もつくっておりますので、生徒のことだけではなくて、気軽にいろいろなご相談ごともお受けできるような形を取っています。

次をお願いします。ここまでA0iスクールの概要をご説明したのですけれども、もう少し踏み込んだお話をしていきたいと思います。

次をお願いします。私たちが子どもの居場所づくりを行う上ですごく大切にしている視点は、この3つ、居たい、行きたい、やってみたいというところになります。これは2023年にこども家庭庁さんが発表された子どもの居場所に関する調査研究というものから出てきたものになります。一部抜粋して書かせていただいたのですけれども、この調査をされた際に集まった実際の子どものたちの声みたいなものをかなり意識して居場所づくりを行っております。

次をお願いします。これと併せて、「不登校の心理」を参考にした場所というふうな書き方をしているのですけれども、やはり私自身の経験や、A0iスクールを検討する中で交流させていただいたたくさんのお子さんたちとか保護者の皆様から伺った不登校の心理とい

うものも非常に参考にしております。

例えば、近所の友達に会いたくないという感覚から、近隣よりも少し離れた場所に通いたいとか、オンラインで通いたいとか、そういったようなお声がありました。なので、A0iスクールでは、当社のアセットを生かして、善行駅の改札を出たら30秒ぐらいでA0iスクールなのです。雨にも濡れない、雪にも濡れないというところで、すぐに駅にも行けるといって遠方からでも参加しやすい。もちろん、オンラインもつくっておりますので、実はオンラインのコースには関西から参加している子がいたり、地域を超えて参加していただけるように努めています。

それから、A0iスクールは学校ではない学びの場所というところを強調したくて、オルタナティブスクールという言い方を、可能な限り使うようにしています。堂々と通ってほしい。「俺はA0iスクールに通っているんだ」、「A0iスクールは超楽しい」と思ってもらえるように、自分が行きたいと思ってもらえるようにやりたいなと思っています。そのために鉄道のプロフェッショナルのコンテンツを用意したり、子どもたちの興味関心をサポートできる、そういう信頼関係を築けるスタッフを用意して、自分の好きなことを学ぶ場所だというふうに認識してもらえるように努めています。

それから、活動の発信をいろいろさせていただいているのですけれども、特にA0iスクールの特色というものをしっかりお伝えして、こういうところだよというところ、特徴をしっかりお伝えすることで、お子様自身に、ここに行ってみたいと思ってもらえるような発信の仕方に努めております。

次をお願いします。少し堅苦しいものにまとめたものがあるので、簡単な紹介なのですが、A0iスクールメソッドというものをつくってしまっていて、プレ開校期間中の生徒の様子とかを踏まえて策定した私たちなりの考え方になります。これは、A0iスクールとして整備している、小田急電鉄が運営しているという安心感とか、鉄道のプロがいるみたいなわくわく感、そういった環境を基盤にして、このメソッドに基づいて子どもたちと向き合っていて、子どもたちの成長をサポートしているのが私たちということになります。

このステップは、一応矢印は書いてあるのですけれども、行ったり来たりしながら進んでいくものなのかなと考えています。少し成長してうまくいったことができなくなってしまいうのは絶対にあると思うのですけれども、それは別に退化ではなくて、進むための一歩かなと私たちは思っています。

次をお願いします。いろいろなスタッフがいますというところで、本当は一人一人じっ

くり紹介したいぐらいなのですけれども、少し簡単に、役割という視点でお話ししたいと思います。生徒にとっては、日頃、自分の興味を広げてくれたりとか、自分の好きなことについて教えてくれたり、そういう大人という立ち位置もあるのですけれども、将来像を描くためのロールモデルみたいな役割もあるのかなと思っております。進路を指導するか、そういうことではなくて、実社会での経験を基にして、一緒にいろいろなことを考えてくれる人、そういうサポーターのような役割なのかなと思ってます。これは生徒に対してだけではないと思っておりまして、保護者の方に対しても、右下の女性のスタッフがいるのですけれども、彼女は、子どもが不登校だった経験があって、そういった子育てを経験しているというところもあって、保護者の方にもサポートができるような形になっているのかなと思ってます。

次をお願いします。では、何で小田急がやっているのかという話なのですけれども、弊社は、左側のところに書いてあるのですけれども、2021年に策定しました子育て応援ポリシーというものを基にしまして、いろいろな子育て世代を応援する取組をさせていただいています。そうすることによって、子育てしやすい沿線というものをしっかり目指しております。

それから、右側は、実は開校前にクラウドファンディングをやらせていただいたのですけれども、そのときにいただいた応援メッセージです。抜粋、少し前だと小さいかもしれないので、お手元を見ていただければよろしいかなと思うのですが、不登校というものに限定してみますと、不登校でも応援してくれる会社があるとか、だから、学校に行く、行かない、行かなくなっても絶望する必要はないというようなことをぜひ会社が発信してほしいという意見、ご要望をいただく機会は多々ありました。私たちのような普通の企業、一般の企業、全然教育とかに関係ないところが不登校という課題に取り組むのは、こういった大きな意義があるのではないかなと思ってます。

次をお願いします。少し長くなってきているので、さくさく行きたいと思いますが、答え合わせというところで、次をお願いします。冒頭お話ししました、なぜ小田急が不登校という社会課題に取り組むかというところ、お話の中で伝わっていればいいなというところなのですけれども、次のスライドに行ってください、子育て世代を応援するという、弊社、小田急電鉄の考え方と併せて、子どもに人気で好きなこととか、興味に応えることができるコンテンツを持っているというところが、小田急が取り組む1つの大きな理由かなと思ってます。この両方が備わっている会社というのはあまりないのかなと自負して

おります。だからこそ、不登校という社会課題に取り組んでいく必要があるのではないかと考えております。

次をお願いします。そして、この「教育のプロじゃなくて、大丈夫なの？」というところですね。次のスライドに行っていただいて、私たちは教育のプロでは確かにないのですが、私も運転士をしておりまして、ありがたいことに子どもたちから憧れていたような職業をやっておりまして。そういった鉄道のプロであると同時に、鉄道のプロというのは安心と信頼を提供するプロでもあるのかなと思っております。日頃、鉄道業に携わる中でお客様にお伝えしていることをそのまま生徒とか保護者の皆さんにお伝えしている、何も変わらないかなと思っています。

こうした実社会で活躍する大人と対等な関係でコミュニケーションを取って自分の好きなこと、興味を突き詰められる、そんな経験は、自分のやりたいことを主体的に捉え、自分でどのようにやっていきたいのか、どういうことを経験していきたいのかを考える1つの大きなきっかけになると考えています。

一方で、やはり教育のプロではない、だから、できないことに関してはプロのお力を借りるということがすごく大事だと思っています。なので、先ほどお伝えしたようなオンラインの教材を使ってみたりとか、そういったところで私たちのできることとできないことを少しずつはっきりさせていきながら、できないところはお力を借りる、得意なところはどんどん使っていくというようなやり方で生徒をサポートしております。

次をお願いします。長くなってしまってすみません、最後にもう少しだけお付き合いください。こういった機会はなかなか貴重なので、お伝えしたいところがあるのですが、ぜひAOiスクールと皆さんと一緒に解決したい課題がいろいろあります。不登校児童の数は右肩上がりに増えているところなのですが、学校以外の学びの場所がそもそも存在しているよということとか、その場所がどういう価値があるんだよというところは、世間一般にはまだまだ浸透し切っていないのではないかなと考えています。どこか、自分の子どもは大丈夫とか、不登校になんかならないよと思っている方は結構多いのではないかと考えています。

一方で、私もそうだったのですが、不登校は突然にきます。突然やってきます。なので、仮に自分の子どもが不登校になったとか、生徒、子どもたち、自分自身が不登校になった。そんなときでも、決して焦らない、絶望しない、そういう社会を目指していきたいと考えております。

その一環というところで、AOiスクールも各種SNSでしたり、いろいろ活動発信をさせていただいております。今日はお見せし切れなかった日頃の生徒たちの様子であったりとか、AOiスクールの中のこととか、いろいろ発信をさせていただいておりますので、ぜひご覧いただきたいなと思います。

やはり私たちもまだまだ勉強が足りないところがたくさんありますので、ぜひこの後の質疑応答もそうですし、もし学校の先生方がお見えでしたら意見交換もさせていただきたいと思います。

以上で私からのご説明は終了とさせていただきたいと思います。すみません、長い時間、ありがとうございました。（拍手）

○内野市長 別所さん、ありがとうございました。

委員の皆さんから、何か質問はございますか。よろしいですか。

会場の方で何かございますか。どうぞ。

○傍聴人 お話、ありがとうございました。フリースクールを運営している者です。

本当に、うちに通っている子どもたちも鉄道が好きで、私も最初に、それこそ新宿から箱根湯本まで全部の駅を覚えなければいけないぐらいな、反対からも覚えなくてはいけないとか。一番困ったのが、もともと障がいのある子どもたちのところにいるのですけれども、7000形のLSEの電車の写真を見せて、今日この電車に乗りますよと言って子どもたちに知らせたら、来た電車が3000形のSSEで、絶対乗りませんと言われたことがありました。本当に鉄道にまつわることではたくさんの思い出があります。その中で、やはりフリースクールを開設して一番難しいなと思うのが、なかなか外に出にくいというところで、小田急さんの駅を降りたら30秒で行ける所にスクールを作るといふ、その立地条件だとか、あとクラウドファンディングを最初されたということなのではございますけれども、運営のところで、職員さんが皆さんで助け合ってください。そういうのは、どんな形で企画して実行されたのか伺えたらうれしく思います。お願いします。

○別所デジタル事業創造部事務員 ありがとうございます。開校の経緯というところかなと思うのですけれども、最初に少しお話しさせていただきましたクライマーズという新規事業のアイデア公募制度が弊社にはありまして、その検討の中でという形になります。ですので、最初からフリースクール、オルタナティブスクールをやると決めていたわけではなくて、不登校の方の課題をどうやったら解決できるのか、どういう形がいいのか、小田急電鉄がやるに当たって、どういう形を取るのがベストなのかというところを、

いろいろな検討を重ねていく中で、では、AOiスクールという形をつくろうというふうに検討していきました。ですので、実はAOiスクールを開校するまでに検討期間が2年ぐらいありまして、じっくりいろいろと準備をさせていただいたところになります。

それから、今、本業を持ちながらスタッフとして関わってくれている方々も、週に1日、AOiスクールに来ていただくというような形を取っています。なので、イメージとしては週に5日働くうちの1日を使ってAOiスクールに来てもらうというような形で、これも弊社の社内の制度がいろいろあるので、そういったところを活用させていただいて来てもらっています。今日もちょうど大野乗務所に見学に行っていると先ほどお伝えしたのですけれども、もともと大野乗務所の管理者をしていたスタッフがいるので、中を隅々まで知っているスタッフが今案内をしていると思うのです。そういった私たちスタッフ側も、これまで学んできた業務の中で知ってきたことを子どもたちにしっかり伝えていくことができる、しかも、それが、それこそ先ほどの駅名は全部きちんと覚えていますので、分かるスタッフと話ができるというところが、私たちスタッフ側も楽しいですし、子どもたちも自分の好きなことにしっかり答えてくれる人がいるというふうに思ってもらえているのかなと思います。

ご回答になっていますでしょうか。

○傍聴人 ありがとうございます。

○内野市長 ほかにはございますか。

○傍聴人 わくわくしたお話を伺えて、とてもありがたい時間でした。お話ししたいことはたくさんあるのですけれども、今現在の通学というか、フリースクールに通っておられる方の人数を教えてください。

○別所デジタル事業創造部事務員 今、3つのコースを全て合わせて45名ほど通学しています。善行に来ている子たちも、実は遠方から来ている子もいて、遠いと埼玉から片道2時間ぐらいかけて来ている子とか、途中で申しましたとおり、近隣よりは、少し遠いところのほうが気持ちとして行きやすいとか。あとは結構あるのが、スクールまでの経路に工夫をしたい、いろいろなところを回って行きたい、帰り方も工夫したいみたいな子も結構いるので、AOiスクールという、善行という場所に来てもらう、家を出たその瞬間からわくわくしてもらっているのかなと思っています。

○内野市長 よろしいですか。

それでは、今日の議題はここで終わりかな。休憩を取らずに会社の紹介をしていただい

て、よろしくお願ひします。

○教育部次長 ありがとうございます。

以上をもちまして、協議事項を終了させていただきます。

内野市長、進行をありがとうございます。

それでは、小田急電鉄様によります企業紹介に移りたいと思いますので、準備をお願いいたします。

(第2部 企業紹介)

○教育部次長 ありがとうございます。

以上をもちまして、第4回総合教育会議はこれで閉会とさせていただきますが、ここで、次回のご案内をさせていただきます。来年度、総合教育会議につきましては令和7年4月20日、日曜日に行う予定であります。

場所につきましては、えびなこどもセンターでの開催を予定しておりますので、多くの皆様方にご出席のほど、傍聴のほど、お越しいただきたいと思ひます。

それでは、以上をもちまして第4回海老名市総合教育会議を閉会とさせていただきます。

なお、この後、小田急様によります屋上の見学会を実施いたしますので、ご希望の方はどうぞご見学のほど、お願いいたします。お忘れ物ないようにご注意ください。

本日は誠にありがとうございました。(拍手)